

# 小田原市 農福連携マッチング支援事業の 取組について

小田原市障がい福祉課

障害者支援センターぽけっと

# 小田原市が取り組む

## 「農福連携マッチング支援事業」について

障がい者が農業に従事することで自信や生きがいを獲得し、社会参加を推進するとともに、担い手不足が進む農業分野の新たな働き手の確保など、地域共生社会を実現するため、持続可能な枠組みを構築する。将来的には農業以外の産業にも応用し、さらなる社会参加の促進を目指す。

- 事業内容・・・①農福連携に関する情報収集および実態把握  
②農福連携マッチング支援事業説明会の実施  
③障がい福祉事業所と農業従事者のマッチング支援  
④マッチングフローの構築  
⑤小田原市農福連携推進懇談会の運営
- 業務委託・・・社会福祉法人よるべ会  
(障害者支援センターぽけっと)
- 実施期間・・・令和6年4月1日～令和7年3月31日

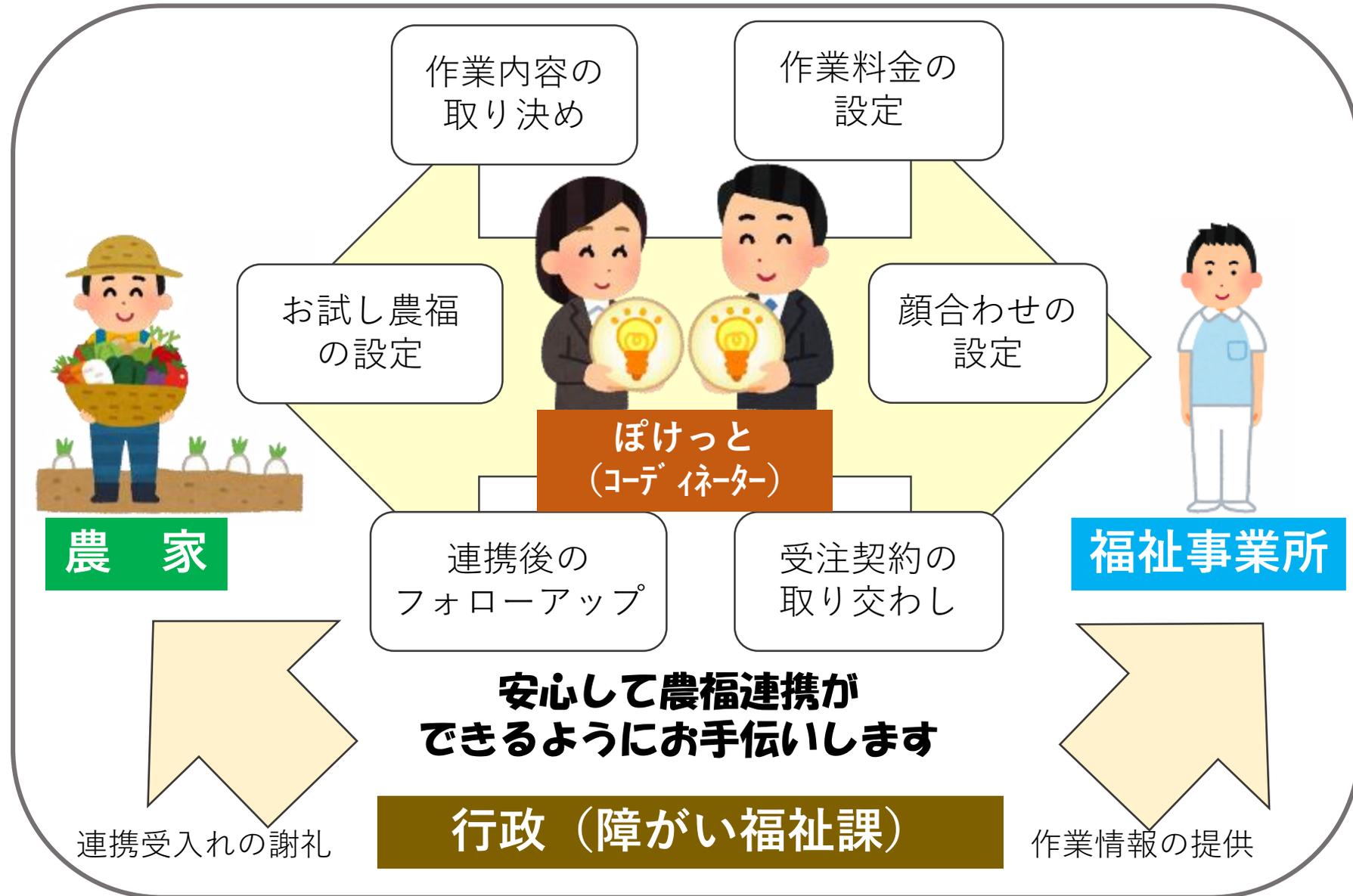


# 令和6年度小田原市農福連携マッチング支援事業 事業計画



- ① 情報収集や実態調査の実施
  - ・農福連携を希望する福祉事業所へ、希望作業や要望などの聞き取りを行う。
  - ・県内他地域における活動の情報収集等を行う。
- ② 事業説明会の実施
  - ・農福連携を広く周知するために説明会や連絡会等を実施する。
- ③ 農家アセスメント・マッチング・フォローアップの実施
  - ・農福連携を希望する農家の作業アセスメントからフォローアップまでを一連の流れとしておこなっていく。
  - 目標件数：新規件数 3件 ・ 継続件数 3件 (事業所 5事業所 ・ 農家さん 5件)
- ④ 各ツールのブラッシュアップと策定
  - ・合意書・契約書・仕様書・アセスメントシートなど各ツールを実態に合わせた形式にブラッシュアップ。
  - ・協議会設置を見据えて「支援ツール」としてまとめる。
- ⑤ **小田原市農福連携推懇談会の運営**
  - ・有識者による意見交換等を実施し、農福連携を推進するための取組みや課題を検討する。
  - ・地域全体で農福連携の取組みを推進するための体制作りを行う。

# 農福連携のコーディネーター機能について



# 令和6年度のマッチング事例紹介

- ①田代竜太氏×農業ステーション（ニンニクの収穫作業）
- ②田代竜太氏×障害者支援センターかのん（ニンニク畑の除草作業）
- ③遠藤國雄氏×農業ステーション（キウイの受粉作業）
- ④増田耕大氏×農業ステーション（農地の除草作業）
- ⑤増田耕大氏×梅香園（農地の除草作業）

## 【参加者】

農家	3件
障がい福祉事業所	3件

新たに合計 **5** 件のマッチングが成立しています。  
引き続き、新たなマッチング支援に取り組んでいきます！



# 【マッチング①】 田代竜太氏 × 農業ステーション

## ニンニクの収穫作業（施設外就労）

これまでの複数回の除草作業による連携を経て、成長したニンニクの収穫作業が行われました。度重なる連携を重ね、農家と事業所の力を合わせて完成した農福ニンニクです。



ニンニクは固く丈夫なので、果物のように収穫時に繊細に扱う必要がありません。気持ちよく次々と収穫作業が進んでいきます。



収穫したニンニクの茎葉と根のカット方法について技術指導を受けます。大きさや状態等の品質基準の説明を受け、職員が理解して利用者に指示できるようにします。

## 【マッチング②】 田代竜太氏 × 障害者支援センター かのん

### ニンニクの収穫作業（施設外就労）

今回、初めてかのんさんが農福連携に参加してくれました。敷地が広く収穫量があるため、他の事業所にもお声掛けをすることができました。



職員と利用者でニンニクの収穫作業にチャレンジしていきます。扱いがしやすく、すぐに作業に慣れている様子が伺えます。

気候もよく、畑での作業は気分転換にもなります。初めての農福連携に参加した利用者さんからは「楽しかったです。」「また行きたいです。」との声がありました。



## 【マッチング③】 遠藤國雄氏 × 農業ステーション

### キウイの受粉作業（施設外就労）

農福連携を行った田代氏の紹介から連携が始まりました。市内の山奥にあるキウイ畑にて技術指導を受けながら、キウイの人工授粉の作業に参加しました。



雌株の花の柱頭（花の中心の白い部分）へ花粉交配機（コロンス）を使用して炭と混ぜた花粉を散布します。



花がきちんと開いたものだけに吹き付けますので、その見極めが重要です。農家さんに確認しながら、その基準を覚えていきました。

## 【マッチング④】 増田耕大氏 × 農業ステーション

### 畑の除草作業（施設外就労）

新規就農者からの相談で、農地を拡大するにあたり除草作業まで手が回らないとの課題を農福連携で解決することになりました。除草作業を得意とする2事業所からの手上げがあり、見学会の開催を経てトライアルでの連携に至りました。



刈払い機を使用して道路沿いの雑草を刈っていきます。機械を使用できる利用者があるので、職員と2名体制で効率的に除草作業を進めることができます。

ハウス内などは手鎌作業班が除草作業を行います。トマトの支柱立て作業も行いました。今後の畑の活用方法次第では、更なる連携も期待ができます。



## 【マッチング⑤】 増田耕大氏 × 梅香園

### 畑の除草作業（施設外就労）

複数の畑があるため、農家さんと各事業所と調整して除草作業を請負う畑を決める調整を行いました。農業ステーションさんとは別の畑にて、トライアルで連携を行いました。



広い農地のため刈払い機を使用しますが、木の根元は刈払い機が使用できないので、手作業で除草を行います。

貸与可能な刈払い機の使用方を農家さんから指導してもらいました。今後も継続的に除草作業の連携が進んでいく方向です。



# 市内連携状況の把握



# 事例報告① ニンニク（田代氏×農業ステーション・かのん）

春に収穫したニンニクを事業所内でばらして計量、重さごとに袋詰めする作業を行いました。収穫後の畑は整備し、植え付けも連携。現在は除草作業も行っていて、1サイクルを超える連携事例となりました。

また、農福連携事業に造詣の深い大島珠子先生のご紹介で国際医療福祉大学の学園祭に農家さんと事業所が合同で出店しました。



計量は施設内就労



マルチをはがして新たに敷き込み、植え付け

国際医療福祉大学の  
学園祭に共同出店



## 事例報告② マコモ (志村米穀店 × かのん)

福祉事業所から連携の報告を受けてマコモの収穫作業を見学。連携のきっかけは農家さんと職員の間につながりがあったことで直接交渉。マコモダケは注文販売分だけ収穫。収穫後の葉を利用を勧められてしめ縄づくりを開始、農家さんが予約販売を行いました。

マコモダケは農家さんが指定した数だけ収穫



スマホアプリ「アグリノート」で情報を管理。作業予定と作業実績を都度入力し共有を行っていました。



動画を見ながら試行錯誤しできたしめ縄。納品のほかにマルシェでも販売したそうです

## 事例報告③ 休耕地を借り農福連携(地域活動支援センターひつじの家)

管理者の発案で耕作放棄地を借り入れて農作業を開始。農作業だけには必ず参加する利用者さんもいるほどで、支援員・利用者さんと地域ボランティアが一緒になって汗を流しています。収穫した作物は事業所の店頭で販売、地域の方々に喜ばれています。

写真右奥だけだった畑を開墾。  
新たに左側も開墾しています



景色を見ながらホッと一息。周囲の農家さんから作業を依頼されることも。

# 農福連携推進懇談会

地域全体で農福連携を促進させるため、「農福連携推進懇談会」を立ち上げた。

農家 2 名、福祉事業所 2 名の計 4 名を委員、JA職員、市農政部局職員をオブザーバーとして構成。

8月、2月の計2回開催。

